

## 年刊誌「インベントリー」の発刊にあたって

In Publishing "INVENTORY"

浜崎忠雄\*

Tadao Hamazaki

独立行政法人農業環境技術研究所が発足して1年余りが立った。新しく設立された農業環境インベントリーセンターでは、農業環境インベントリーの構築や研究活動の状況をお知らせし、農業環境インベントリーの活用を促進するため年刊誌「インベントリー」を発刊することとした。ここにその第1号をお届けする。

ちなみに、インベントリーとは、一般には財産や在庫品の目録を意味するが、自然資源の目録、目録の作成、さらには目録に記された物品の意味もある。最近では、「温暖化ガスインベントリー」のように、自然科学系でもよく使われるようになってきている。

農業環境問題を解決するための研究では、まず農業環境を構成する土壌、水、大気、昆虫、微生物、動物、植物、肥料、農薬など農業生態系の中で相互に作用し合っている要素をよく把握することが重要である。これらの要素の調査・観測・分析・モニタリングなどのデータや手法、分類・特性・機能・動態・予測などの知見、保全・管理などの技術に関する情報と標本は、多年にわたり多大の労力と資金をつぎ込んで蓄積されてきたものあるとともに、農業環境研究を推進する上でも、また研究成果を社会に役立てていく上でも、研究所にとって貴重な財産である。

農業環境技術研究所が取り扱う環境や食料の安全性の問題は、長年かけてじわじわと進行し、突然問題化することが多い。地球温暖化、ダイオキシン・カドミウム・硝酸性窒素汚染、進入・導入生物の生態系影響など問題の発生に迅速に対応し、農作物や農業生態系の安全性を確保するためには、日頃から必要なデータや標本を集積して置き、それを総合的に活用した調査や解析が必要である。

農業環境インベントリーは、分散して保存されている農業環境に係わる膨大なデータや標本を整理して、データベース化を進めるとともに、それらの情報の検索・利用や新たな情報の蓄積を容易に行うことのできるシステムを開発することにより、分野を越えて情報を流通させ、高度利用、多面的利用を図ることを目指している。

また、農業環境インベントリーには、標本も重要である。現在、農業環境技術研究所には内外の200以上の土壌モノリス（断面標本）と多数の土壌試料、約120万点の昆虫標本と500点を超えるタイプ標本、約7,000点の微生物標本や菌株などを所蔵し、農業環境インベントリー構築の基礎となる分類・同定研究や研究素材の提供に役立てている。例えば、過去に採取され蓄積されている土壌試料は、ダイオキシンのように新たに発生した環境問題を過去にさかのぼ

---

\* 農業環境インベントリーセンター長

Natural Resources Inventory Center

インベントリー、第1号、p.1-2 (2002)

って明らかにし、将来のリスクの予測を行うのに活用できる。

農業環境インベントリーは、研究者だけでなく、行政関係者、技術者、一般市民に対しても必要な情報が効果的に提供できたり、提供した情報が新たな情報を生んだらインベントリーに戻してもらうことで増殖するシステムにしたいと考えている。また、農業環境の状態を過去、現在、未来にわたって一目で見ることができるようになることによって、かけがえのない健全な農業環境資源を次世代に継承することに貢献したいと考えている。

農業環境インベントリーは、農業環境に関わるすべての分野の情報や標本の集積、提供を目指しているので、農業環境インベントリーセンターだけでなく全分野の連携、協力により構築を進めている。

年刊誌「インベントリー」には、「報文」、「研究トピックス」、「インベントリー」、「研究標本館」、「付録」のコーナーを設けた。「報文」には、研究論文または研究やインベントリー構築上有用な資料等を掲載する。「研究トピックス」では、当該年に生まれた主要な成果の概要をいち早くお届けする。「インベントリー」では、WEB上またはCD-ROMなどのメディアで公開または公開予定の農業環境関係各分野の個々のインベントリー（データ、手法、知見、技術など）とインベントリー構築と利用に関連して作成されたシステムなどを紹介する。「研究標本館」には、土壌モノリス館、昆虫標本館、微生物標本館の標本・資料の情報のほか動物や植物の標本・資料など農業環境各分野の標本・資料の情報を掲載する。また、「付録」には、農業環境インベントリーセンターのセミナー講演要旨、研究課題、研究成果、研究協力・交流、在職者とその動きなどを掲載する。

農業環境インベントリーの構築と農業環境インベントリーセンターの研究活動は始まったばかりであり、第1号の「インベントリー」のコーナーでは農業環境研究所ホームページの研究トピックスのコーナーなどですでに公開している事項を中心に紹介している。当面は公開できる個々の情報を逐次農業環境技術研究所ホームページ (<http://www.niaes.affrc.go.jp/>) や農業環境インベントリーセンターのホームページ（近日開設）で公開して行き、実用できる農業環境インベントリーのフレームができた段階で、統合した「農業環境インベントリー」として公開したいと考えている。

農業環境インベントリーは、かけがえのない健全な農業環境資源を次世代に継承することを目指すすべての人々の力を得て構築して行きたいと考えている。よりよい農業環境インベントリーの構築のため是非皆様の知恵と情報をお寄せいただきたい。また、掲載事項に関心のある方はお問合せいただきたい。